

相手や目的を意識してよりよい表現に書き直せる児童の育成

～交流の視点を明確にして作る連歌形式カルタ～

はばたく群馬の指導プラン
国語 課題3

伝統的な言語文化と
国語の特質に関する事項

B書くこと オ・カ
推敲・交流に関する指導事項

児童の実態

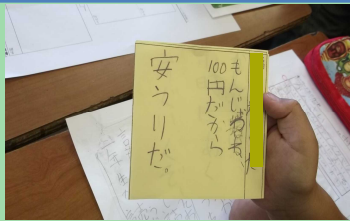
国語班 柴崎 厚志(小学校教諭)

- 推敲しても、自己満足や感想の交換になってしまい、文が深まらない。
- 書くことが苦手で意欲が上がらない。
- いつも同じ表現で満足してしまう。

手だて
1

○相手意識・目的意識をもつ

「2年生と遊ぶ」ために「桜木地区のよさを伝えるカルタ」を作ることを伝え、五七調で読み札を考える。



5・7・5で地区のよさを伝えるよ。



連歌形式カルタって、どう作るの？

手だて
2

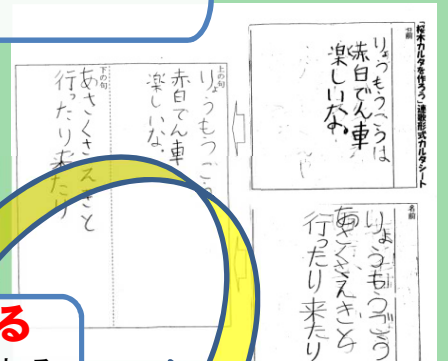
○推敲の視点を明確にする

推敲の視点について考えさせ、児童の間で共通理解しておく。その際、相手意識・目的意識について、より具体化したものを視点とする。

○2人組で「連歌形式カルタ」を作成する

2人がそれぞれ同じ場所について、五七調で作った読み札を合わせ、百人一首の形式でカルタを作る。

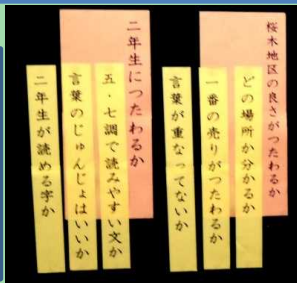
2人の文を、1つの読み札にするんだね。



手だて
3

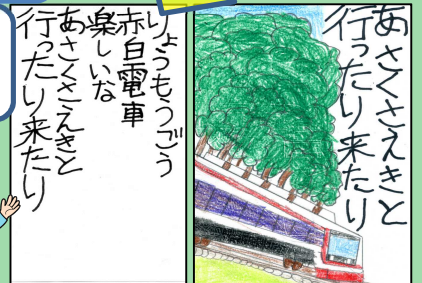
○よりよい表現になったことを実感する

2年生とのカルタ遊びを通して、文の内容が相手に伝わる喜びを実感する。



取り札も作ったよ。2年生は、楽しめるかな？

推敲の視点に沿って話し合おう！



よりよい表現に書き直せる児童

研究の成果

- 相手意識・目的意識から推敲や交流の視点を考えさせたことで、児童同士が「よりよい表現」について共通理解をすることができた。
- カルタの読み札は文の量も少ないので、書くことが苦手な児童も意欲的に取り組めた。
- 一斉指導の中では意見を言えない児童も、2人組ということで交流しやすかった。

課題

- グループ作りの際に書く力が等質になるようにグループ分けをしたが、苦手な児童のグループは「よりよい表現」の文のイメージをもつことが難しかった。
- 交流の時に話し合いに夢中になり、推敲の視点からずれてしまうグループもあった。